

2020 年度 天草整肢園 事業報告書

全般について

天草整肢園は、基本理念の「尊厳・自立・共生」の実現を図る為、2020 年度の事業計画に則り、生活介護、施設入所支援事業を実施しました。しかし新型コロナウイルス感染症の拡大により中止や変更等をしながら実施しました。

2020 年（令和 2 年）4 月 1 日時点の利用者数は、男性 29 名、女性 11 名の合計 40 名、平均障害支援区分は 4.72 でスタートしました。

1 年間の利用者の動向として、新規入所 3 名、退所では、1 名の死亡による退所がありました。2020 年度末の利用者数は 42 名、平均障害支援区分は 4.85 となっております。

新型コロナウイルス感染症については、全国で拡大しており、熊本県においても変異ウィルスの発生がある事で、昨年度に続き会議を毎週実施。職員が施設に持ち込まないよう対応や意識付けを行いました。また出勤時は自宅と施設で検温、不要不急の外出は控えてもらう等の対策を継続して行っています。更に検温時 37℃以上、または、熱が無くても風邪症状がある場合は、その日から 4 日間は勤務しないこと等ルールを決めて対応しました。更に感染管理認定看護師に来園して頂きゾーニングの勉強会や新型コロナ感染が施設で発生した場合を想定したシミュレーションを行い、いざという時に慌てず対応できるようマニュアルを作成しました。利用者については、天草市で発生した場合は、対面での面会や外出を控えてもらうなど、ご家族のご理解ご協力を頂いて対応を継続し行っています。利用者のストレスを軽減するために、面会はオンライン面会、窓越し面会で対応し外出支援は出前やテイクアウト等に変更、屋外で他者と接触がないドライブは実施をしました。行事についても、地域の方々を招いての「ふれあい祭」は中止しましたが、施設内行事を天草整肢園、苓龍苑、別々に規模を縮小して行うなど、新しい行事のスタイルを工夫し実施する事ができました。更に年 5 回のお楽しみ会の開催は利用者にとっても楽しみでストレス軽減となったようでした。

職員研修について 2020 年度は、ほとんどの外部研修が中止や不参加となりましたが、オンラインでの研修や会議を行うなど、新たな研修方法で参加できたものもありました。施設内研修では、KYT 研修や人権研修、介護技術の勉強会、救急法など多くの職員参加でスキルアップを図る目的で実施する事ができました。また人権擁護虐待防止の意識付けを図る為、職員ミーティングにおいて「令和元年度苦情解決に関する状況調査結果事例」を毎日、1 例ずつ読み合わせを行いました。

ふれあい公園の活用では、日中活動及び訓練時間に活用する他、利用者個人での散歩、不穏状態の利用者がいる場合には、職員と一緒に公園で折々の花を眺め気分転換を図りました。感染症対策の際は外出禁止の為、ふれあい公園を活用し気分転換が図れることはとても良いことで、休日も散歩を希望する人がいました。

満足度調査においては、満足度調査委員会を新たに発足し 2020 年 1 月にアンケートを実施しました。福祉機器の活用の質問では、利用者の方の満足度は高く高評価を得ています。

